

特色ある学校

中高一貫教育への取り組み

秋田県立横手工業高等学校長 和賀完治

1. はじめに

国際化・情報化の進展をはじめ、少子高齢化や技術革新等による産業や経済構造の変化など、社会情勢が急激に変化する中で、本県の場合、少子高齢化、人口の流出、過疎化などが進み、これらの変化や課題に適切かつ柔軟に対応し、改善・整備していくことが高等学校教育においても強く求められていた。

その中で秋田県教育委員会では、平成12年7月「第五次秋田県高等学校総合整備計画」（平成13年度～22年度の10年間）を策定した。

この整備計画の背景として、中学校卒業者の急激な減少に対応し、全県的な視野に立った学校規模の適正化や学科の適正な配置、男女共生社会の到来への対応、生徒の興味・関心、進路意識の多様化に対応した教育内容の検討、完全学校週五日制や新学習指導要領の実施などがあげられる。

一方、本校は校舎の損傷がひどく校地も狭隘なので、平成9年7月「校舎改築期成同盟会」を立ち上げ、校舎の移転改築を県に働きかけてきたことや、少子化に伴い学科により定員割れを生じてきていることなど、教育改革を巡る国や県の動きと相まって、秋田県としては初めての県立中学校を併設し、工業高校を母体校とする普通科と工業系の学科を併



せ持つ中高一貫教育校として、平成16年4月に開校することになった。

2. 設置母体となる横手工業高等学校の現状

(1) 概要

- ①創 立 昭和18年
- ②所 在 地 横手市前郷二番町10番1号
- ③学校規模

「全日制課程」17学級

機械科，土木科，建築科は各3学級，
電気科6学級（電気および情報技術
のコース制），工業化学科2学級

「定時制課程」4学級

(2) 現 状

- ①横手工業高等学校は、県南地区を中心に地元企業で働く有為な人材を育成する工業高校として、地域の期待に答えてきた。しかし、社会の変化に伴い、中学生の進路意識にも変化があらわれ、ここ数年は恒常的に定員割れを生じている学科もある。そのた

め、新しい構想に基づく総合技術系の学校として根本的な改革を行う必要がある。

- ②現在地は横手市駅前で通学の利便はよいが、校地が狭隘で日々の教育活動に支障をきたしている。また、現校舎は建築後40年近く経過し、老朽化が著しい現状にあることから、移転して改築する必要がある。
- ③併設している定時制課程については、県南地区の基幹校と位置付け、既存の施設を利用しながら特色ある学校を創設するとともに、秋田東高校通信制課程の分室も設置しながら充実を図る必要がある。

3. 中高一貫教育校の概要

- (1) 設置年度 平成16年度
- (2) 学校名 秋田県立横手清陵学院中学校
秋田県立横手清陵学院高等学校
- (3) 設置形態 新設の県立中学校を併設した併設型中高一貫教育校
- (4) 規模、学科
〈中学校〉 各学年2学級
〈高等学校〉 各学年5学級
(普通科2学級、総合技術科3学級)

(5) 教育方針等

①設置の理念

「21世紀を主体的に生き抜く人材の育成」

- ・一人ひとりの個性を磨く学校
- ・国際化・情報化に対応できる学校
- ・地域環境の学習を大切にしている学校
- ・ものづくりによる豊かな心を育む学校
- ・地域に開かれ地域と共に発展する学校

②教育の目標

- ・6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、ゆとりある学校生活の中で生徒の個性と創造性を伸ばすこと。
- ・6年間を通して、問題解決能力の育成を重視し、生徒の多様な進路希望に対応す

ること。

- ・新しい時代を切り拓く新技術の開発や活用をしたり、高度情報化社会等に貢献できるようにすること。
- ・異年齢集団による活動を行い豊かな人間性や社会性を身に付けさせること。

③目指す生徒像

- ・豊かな心を持ち、地域への貢献に意欲的に取り組む生徒
- ・国際感覚を身に付け、主体的に行動する生徒
- ・情報化社会の進展に柔軟に対応できる生徒
- ・新技術の開発や活用に積極的に挑戦する生徒

(6) 教育課程

①教育課程編成の基本的な考え方

- ・6年間を見通したゆとりある教育課程を編成し、豊かな人間性や社会性を身に付けさせるとともに、一人ひとりの個性を生かし、その伸長を図る。
- ・中学校と高等学校の連携、交流を図り、教育課程の基準の特例を生かし、選択履修の拡大を図り、柔軟な教育課程を編成し、特色ある教育活動を展開する。
- ・6年間を見通した計画的・継続的な「総合的な学習の時間」の実施により、自己の在り方生き方や将来の進路を考える機会の充実を図る。

②教育課程等の特徴

- ・二期制
完全学校週5日制に対応し、授業時間の確保等を目的として二期制を採用する。
- ・モジュール方式を取り入れた時間割
1単位時間50分を標準とするが、教材の特質や生徒の実態、学習環境の状況等により授業の単位時間を弾力化する。
- ・ノーチャイム制

モジュール方式の積極的な導入のためノーチャイム制を採用する。

・選択学習の充実

中学校における選択教科の時間は中高一貫教育校の基準の特例の活用を含め1学年40時間、2学年59時間、3学年170時間とする。選択教科には「その他特に必要な教科」として、1学年では「英会話」と「情報」、2学年では「英会話」、「情報」、「ものづくり」、3学年では「英会話」、「情報」、「ものづくり」、「産業社会と人間」を開設する。

また、高等学校においては、生徒の興味・関心や進路希望に対応して科目選択ができるように学科、コース、学類の枠を超えた履修を可能とする。

・スキルアップタイムの設置

高等学校においては、中学校の給食と高等学校の昼食の時間差を有効に活用して、毎日20分間のスキルアップタイムを設け、基礎学力、応用力、技能・技術の定着を図るとともに、その成果によって当該科目の増加単位として認定する。

・ふるさと教育の充実

開かれた学校づくりを目指し、郷土に対する愛着を深めさせるため、地域に対する学習や奉仕活動等を積極的に進めるとともに、学校ボランティアや社会人講師などの地域の人材の活用や、地域社会の意見を積極的に教育活動の中に取り込み、地域と共に育てていく教育を推進する。

・指導方法の改善

中学校2年から高等学校3年までに開設される「英語」、「数学」及び総合技術科の基礎科目等においては習熟度別学級編成とする。また、教科の特性を生かし、中学校や高等学校の教員が連携してティ

ームティーチングを実施する。さらに国際理解教育においてはALTやインターネットの活用を積極的に推進する。

・接続カリキュラムの工夫

併設中学校以外からの入学者については、接続カリキュラムとして「基礎英会話」、「基礎情報」及び「基礎技術」を開設する。

・キャリア・ガイダンスの充実

キャリア・ガイダンスのためのカウンセリング機能を整備するとともに、中学校3年及び高等学校1年において「産業社会と人間」を開設して進路学習の充実を図る。

・生徒指導の充実

高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラー等の支援により、異年齢集団において予想される生徒の多様な問題行動等への対応やカウンセリング等の充実を図る。

・部活動指導の充実

異年齢集団において、6年間の継続した指導、連続した練習等により、社会性を身に付け、技術や技能の向上を図る。

(7) 学科、コース等の特性

〈中学校〉

普通教育を行うこととするが、中高一貫教育校の特例を生かし、「その他特に必要な教科」等の選択教科を設定し、日常英会話、コンピュータの活用、コミュニケーション等の能力の育成やものづくり指導、生き方指導を重点化する。また、『英会話コース』、『情報コース』を設け、自分の興味・関心、特性等に基づいて2学年から選択できるようにする。

〈高等学校〉

①普通科

普通科の教科を中心に学習し、キャリ

ア・ガイダンス等により、自分の進路や興味・関心、特性等に基づいて2学年からコースを選択する。ただし、他のコースに開設された科目もコースの枠を超えて履修可能とする。

・国際コース

英語に関する科目や国際交流、外国事情に関する科目等を多く開設するとともに第二外国語の履修により、豊かな国際感覚と英会話等のコミュニケーション能力の育成を図る。また、国際系大学等への進学にも対応できる能力を培う。

・人文コース

文科系の科目を中心に多様な科目を開設し、コンピュータを多く活用した学習等により、人間のさまざまな営みによる社会や文化について考察し、情報処理能力の育成を図り、職業人としての生き方を身に付けさせる。また、文学系、法学系、経済学系、社会学系の大学等への進学にも対応できる能力を培う。

・数理コース

理数科に関する科目を中心に多様な科目を開設し、実験・実習等を多く取り入れ、物事を科学的・数学的に考察し処理する能力の育成を図る。また、自然科学系、理工系、医学・薬学系の大学等への進学にも対応できる能力を培う。

②総合技術科

共通となる工業の基礎科目を1年間履修し、「ものづくり」教育を特に重視し、キャリア・ガイダンス等により自分の進路や興味・関心、特性に基づいて2学年から類型を選択する。ただし、他の類型や普通科に開設された科目も類型や学科の枠を超えて履修可能とする。

・システム工学類

設計、加工から生産管理に至る体系的な

仕組みやロボット制御に関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、情報に関する技術を身に付け、技術革新に対応できる能力の育成を図り、機械の設計、加工、生産管理の業務に関する技術者として必要な能力と態度を育てる。また、機械や情報系の工学系大学等への進学にも対応できる能力を培う。

・情報工学類

電気と電子に関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、情報に関する技術を身に付け、技術革新に対応できる能力の育成を図り、電気、コンピュータの利用・製造の業務に関する技術者として必要な能力と態度を育てる。また、電気、電子や情報系の工学系大学等への進学にも対応できる能力を培う。

・環境工学類

環境の保全や快適な生活環境づくりに関する基本的な知識と技術を習得させるとともに、情報に関する技術を身に付け、技術革新に対応できる能力の育成を図り、建築、土木及び環境開発の業務に関する技術者としての能力と態度を育てる。また、建築や土木、化学系の工学系大学等への進学にも対応できる能力を培う。

4. おわりに

秋田県初の中高一貫教育校として、地域住民や県民の大きな期待と注目を受けながら、また、工業高校を母体校とし、普通科と工業系の総合技術科を併せ持つ中高一貫校として、全国的にも注目を浴びながら、平成16年4月に開校することになった。今、工業高校のあり方が見直されている中で、一つの選択肢として方向性を示していきたい。